

HCV 抗体		2300100			
		担当部署			
HCV		生化			
<b>検査オーダー</b>					
患者同意に関する要求事項		特記事項なし			
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*1.頻用→			
	2	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→感染症・ウイルス→			
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		特記事項なし			
検査受付時間		8 : 15～16 : 00			
<b>検体採取・搬送・保存</b>					
患者の事前準備事項		特記事項なし			
検体採取の特別なタイミング		特記事項なし			
検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	全血	10 青	分離剤	8	mL
2	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-
検体搬送条件		室温			
検体受入不可基準		1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体 3)固形物 4)粘性のある検体			
保管検体の保存期間		冷蔵・2週間(追加検査については、検査室に要問合せ)			
<b>検査結果・報告</b>					
検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部			
測定時間		当日中～翌日			

生物学的基準範囲		設定なし			
臨床判断値		陰性：C.O.I.が1.0未満を示す検体は陰性と判定します。 陽性：C.O.I.が1.0以上を示す検体は陽性と判定します。 ルミパルス HCV 試薬添付文書			
基準値				単位	COI
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし
パニック値	高値	設定なし			
	低値	設定なし			
生理的変動要因		特記事項なし			
臨床的意義		<p>C 型肝炎ウイルス(HCV)は、ヒトに慢性の肝障害を引き起こすフラビウイルス科の RNA ウイルスである。おもな感染経路は輸血をはじめとする血液とされるが、明らかな感染のきっかけが不明の症例も多い。</p> <p>HCV の検査法がなかった 1980 年代後半まで、輸血による肝炎発症はまれではなかった。HCV は急性肝炎を起こすほか、ウイルスが排除されない場合は慢性化し、10 年以上の長い年月を経て肝硬変から肝細胞癌に進展する。</p> <p>現在わが国でみられる原発性肝癌(肝細胞癌)の多くは C 型肝炎ウイルスが原因である。</p> <p>現在、一般に第三世代 HCV 抗体と呼ばれる検査は、いわゆる“第二世代”抗体測定系に C 型肝炎ウイルス(HCV)ゲノム上の NS5 領域由来の抗原を付加したものである。</p> <p>すなわち、構成自体はコア領域および非構造領域の複合抗原であることに変わりがなく、測定系として分類・定義するなら第二世代 HCV 抗体の一種となる。実際、臨床的感度も第二世代 HCV 抗体を大きく上回るものではない。</p> <p>なお、第三世代 HCV 抗体測定系において NS5 抗原により検出される抗体は、一般に感染既往抗体と考えられている。NS5 抗体単独陽性血清で HCV-RNA の有無を検索した成績によれば、その大部分は RNA 陰性であったという。</p> <p>したがって、現時点の HCV 感染のスクリーニングを目的とする時、第二世代と第三世代のいずれによっても本質的な優劣はないといえることができる。</p> <p>三菱化学メディエンス 検査項目解説 改訂第 4 版 383</p>			